



株式会社 **アビスト**  
CSR Report 2017



## CSR Report 2017 について

### 編集方針

---

「CSR Report 2017」は、アビストの企業理念、事業内容、CSRそれぞれの関連性、およびCSRへの取り組みをまとめたレポートです。当社がどのような思いでCSRに取り組んでいるのか、そのポイントや課題は何かについて、ステークホルダーの皆さまにお伝えすることにより、ステークホルダーの皆さまと当社との建設的な対話を促進し、当社のCSRへの取り組みを継続的に改善することを目的として本レポートを発行いたします。

### 対象期間

---

2016年10月～2017年9月

(一部、2016年10月以前の活動や発行日直前の状況も含めています。)

### 報告範囲

---

アビストおよび連結子会社の活動

### 発行時期

---

2017年12月



## CONTENTS

---

### 01 CSR Report 2017 について

- 01 編集方針、対象期間、報告範囲、発行時期
- 03 社長メッセージ
- 04 アビストの概要
- 05 企業理念
- 06 CSR 方針・推進体制

### 02 トピックス

- 01 3Dプリント事業所（豊橋）新設、abitel（アビテル）販売開始
- 02 東証「企業価値向上表彰」の候補 50 社に選抜

### 03 環境激変に全社一丸となって対応するために

- 01 変化に対応して生き残る
- 02 社員にスポットライトをあてる
- 03 方針、考え方の浸透
- 04 目的を持って行動し考える

### 04 社会貢献

- 01 クリーン・ボランティア活動、障害者雇用の推進
- 02 大学との産学連携、アビスト H&F による熊本への義援金など

### 05 人権の尊重

### 06 ステークホルダーエンゲージメント

### 07 環境保全

### 08 コーポレート・ガバナンス

- 01 コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方 . . .
- 02 リスクマネジメント
- 03 コンプライアンス
- 04 コンプライアンスガイドライン

## 社長メッセージ

---

当社は『コンプライアンス、CSR の遵守と社会貢献』を事業目的の一つとして掲げ、東証一部上場企業としての責任を重く受け止め、CSR の推進に努めてまいりました。これからも、社会市民の一員として、責任を果たしさまざまな貢献ができるよう CSR に継続して取り組んでいきます。

第 12 期（2016/10～2017/09）は、工業設計技術サービスへのお客さまのニーズが引き続き堅調に推移し、ほぼ計画通りの決算となりました。当社の主要顧客である自動車業界は、現在、EV シフトや自動運転技術の進展など、大きな変換点にさしかかっています。当社は、請負化の推進やコア領域の設定などにより、ニーズに対応するとともに、強みとなる軸を形成してきました。

今後ますます加速する技術進化を機会ととらえ、現在、取り組んでいる、3D プリント事業やロボット事業の拡大を図り、あわせて、当社の強みを活かした次の柱になるような新たな事業を創出し、今までにない価値をお客さまに提供することを通して社会貢献したいと考えています。

今後も新たな価値を創造し続ける企業として成長できるよう努力してまいります。引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2017 年 12 月

株式会社 アビスト

代表取締役社長

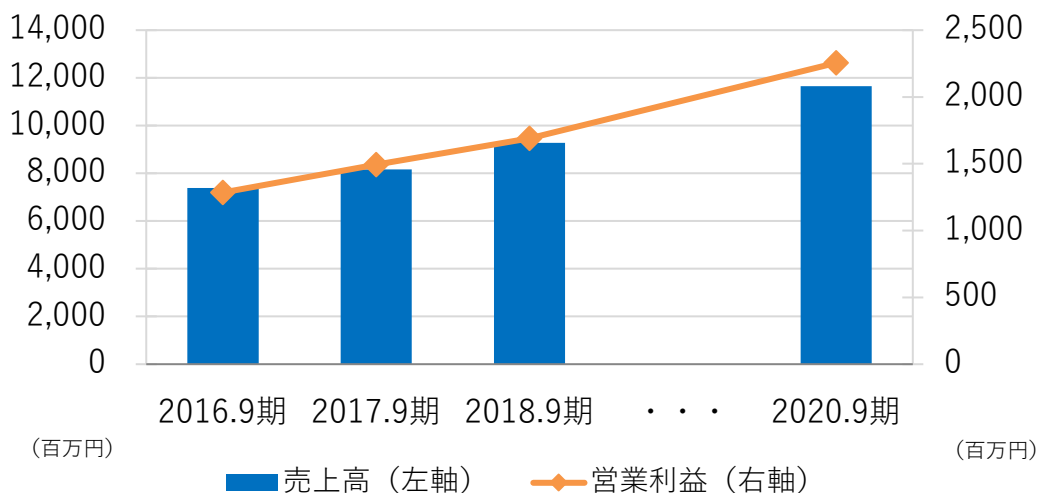
**進 勝 博**

## アビストの概要

社名	株式会社アビスト (ABIST Co.,Ltd.)
本社	〒165-0026 東京都中野区新井2丁目6番13号
設立	2006年3月17日
代表取締役社長	進 勝博
資本金	10億2,665万円
社員数	1095名 (2017年9月末現在・連結) ※
事業内容	・工業設計技術サービス事業 ・3D-CAD 教育事業
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 証券コード：6087

※社員数は臨時従業員16名を含む

連結業績	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期 (予想)	...	2020年 9月期 (中計)
売上高(百万円)	7,387	8,169	9,280	...	11,653
営業利益(百万円)	1,285	1,494	1,689	...	2,255
売上高営業利益率	17.4%	18.3%	18.2%	...	19.4%



## 企業理念

---

### 創業の精神

設計技術者が設計技術者のために働き合う設計技術者の集団を確立する

- ・自らが汗して、苦勞して、実体験して道無き道を踏破し、そのナローな道から光明を得る。
- ・人が嫌がる道を敢えて進んで独自の道を切り拓く。
- ・易しい事ができてもその価値は小さい。
- ・やりにくい、難しい事をやり遂げ、価値あるものになる。
- ・人の真似はしない。智恵を加えて、似て非なるものを求める。
- ・四分の利があれば、伸るか反るか、大勝負。臆病風に誘われてはいけない、是非を忘れて最後までやりぬく。

### 事業目的

1. 取引先の信頼と安心の確保に基づくサービスの提供
1. 社員の生活向上と安定の確保
1. コンプライアンス、CSRの遵守と社会貢献

### 経営理念

顧客主義	取引先との共生によるパートナーシップの確保
社員主義	社員の自主自律による価値創造の確保
成果主義	機会平等と評価公平性の確保

### 信頼の和の六輪づくり

- ・お客様との信頼の和
- ・大学関係者との信頼の和
- ・技術社員と拠点との信頼の和
- ・拠点と本社の信頼の和
- ・本社内の上司部下との信頼の和
- ・ステークホルダーとの信頼の和

## CSR 方針・推進体制

---

アビストの事業目的は、社会全体、お客さま、当社の社員、のそれぞれに対しバランス良く貢献することを表しています。特に「コンプライアンス、CSR の遵守と社会貢献」については、法令や社会倫理に従い、責任を果たしていくことにより、社会に貢献することを表明しています。アビストは事業開始以来、設計のアウトソーシングサービスの提供により、日本のものづくりに貢献してきました。技術者が働きあう技術者集団の確立を創業の精神として、3D-CAD 技術に特化することにより、高度な技術を持った技術者を多数育成し、人づくりとしての貢献もおこなってきました。設計技術については、3D-CAD のみにとどまらず、一連の開発業務である解析や測定まで事業範囲を拡大しています。また、3D データの取り扱いノウハウを活かした 3D プリント事業の拡大により、データ領域だけでなくリアルな領域にも進出しています。アビストの社員が安心して就業できる環境をつくりあげることで、サービスレベルも向上し、お客さまに満足していただけるサービスを提供することができます。顧客満足と新たな挑戦により、会社が成長してステークホルダーの皆さまに貢献できると考えています。

アビストは、事業目的の通り、社会全体、お客さま、社員のそれぞれに貢献していくことを目指し、CSR を推進いたします。CSR の推進を総務部の業務と規定して推進主体を明確にし、取締役会と連携することにより全社的な活動をおこないます。

## トピックス

### 3Dプリント事業所（豊橋）新設

---

愛知県豊橋市の3Dプリント事業所が5月15日に竣工しました。本事業所は、2016年8月に愛知県豊橋市の豊橋リサーチパーク内に約760坪の土地を購入し事業所を新築したもので、海老名試作事業所（神奈川県海老名市）に続く当社2番目の3Dプリント事業拠点となります。金属造型機を中心とした最先端設備を設置し、2017年7月に稼働を開始しています。



### abitel（アビテル）販売開始

---

独自開発した受付電話ロボット abitel を 2017 年 6 月より発売しました。abitel は、音声またはタッチパネル入力を通じて来訪者と担当部署の内線電話とをつなぎます。顔認証機能を備えており、次回以降は来社されたお客さまを自動的に認識します。また、クラウド上の受付管理システム（abitel クラウド）との連携により、よりスムーズな受付業務が実現します。アビストの本社および事業所の受付にも設置し、お客さまから「便利」「おもしろい」といった感想をいただいています。



## 東証「企業価値向上表彰」の候補 50 社に選抜

---

アビストは、東京証券取引所(以下「東証」)が実施する「第 6 回 (2017 年度) 企業価値向上表彰」の表彰候補 50 社に選抜されました。この制度は東証に上場している企業 (約 3,500 社) のうち、資本コストをはじめとする投資者の視点を深く組み込んだ経営の実践を通じて、高い企業価値の向上を実現している上場会社を選抜し、表彰するものです。表彰候補 50 社には、高い収益性、持続的な向上力、経営への着実な根付き、という 3 つの特徴があり、これらの特徴が、表彰候補 50 社が継続的に市場から高く評価される要因となってきたと推定されています。

アビストは、「設計技術者が設計技術者のために働き合う設計技術者の集団を確立する」という創業の精神のもと、3D-CAD 設計をキーワードに技術者を育成し、消費者ニーズの多様化や競合の激化に対応するための、お客さまの設計開発の効率化や開発期間の短縮に貢献してきました。

技術者の派遣事業からスタートして、お客さまの要望に応えるため、また、技術進歩を機会ととらえ、設計開発請負事業、3D プリント事業、ロボット開発と事業領域を広げてきました。あわせて、技術者のキャリアの複線化や組織の細分化により、技術社員が安心して、技術社員同士がお互いを高めあいながら働くことができる環境を整えてきました。これらの数々の取り組みが企業価値向上につながっていると考えています。

## 環境激変に全社一丸となって対応するために

### 変化に対応して生き残る

最近、アビストの主要顧客である自動車業界の電気自動車（EV）シフトの記事がよく出ています。欧州をはじめ世界の自動車メーカーは具体的な数値目標を掲げて EV 対応を進めています。自動車メーカーの EV シフトにあわせるように、フランスやイギリスは 2040 年までにガソリン車やディーゼル車の販売を全面的に禁止する方針を打ち出しています。ノルウェーではすでに新車販売の 2 割が EV になっています。2016 年の自動車販売の EV 比率は 1% に満たない状況ですが、想定以上の速度で EV 化が進む可能性があります。

自動運転についても、先行する IT 企業や半導体企業と自動車メーカー、自動車部品メーカーの連合等による開発競争が激化しています。複数の自動車メーカーが 2020 年前後までにレベル 4（地域など条件を限定した高度自動運転）を実現することを表明しています。現在、開発がすすむ完全自動運転の実現には、精密な 3 次元地図が必要になります。現在、地図・測量会社、半導体メーカー、自動車メーカー、部品メーカー、IT 企業などによるグローバルでの 3 次元地図の標準化の主導権争いが激しくなっています。AI による知能革命では、現在、会社組織や人間等と一体になっている学習や判断が、組織や人間から切り離され自由に配置できるようになります。現時点では AI は言葉は理解できません。ただ、AI の学習が進み、背景や常識を捉えられるようになると、言葉を理解できるようになり、言葉の理解がすすむと、2030 年には AI の領域が人間の知的労働の分野に拡大すると考えられています。自動車業界だけを見ても、従来の「良いクルマをたくさん作って売る」という競争とは別次元の競争が始まっています。アビストも、3D プリント事業への積極的な投資やロボット開発への進出など、激変の時代に対応できる体制の構築に取り組んでいます。

アビストの強みは高度な技術力を持つ人材を多数かかえているということです。技術社員が安心して就業できる環境を作るために、2017年10月に定年を65歳に延長し退職金の増額もおこないました。また、アビストは基本的にチームで仕事をしているため、技術社員のチーム力向上のための支援も開始し、それぞれのチームの創意工夫を生かした活性化策が次々に実施されています。その他、社員表彰、全体会議、サークル支援、階層別研修などにより、社員の意欲向上や思いの共有をおこなっています。

## 社員にスポットライトをあてる

アビストでは、がんばった社員にスポットライトをあて、社員全員で称賛すること、就業場所が異なるために近況を聞くことができないう他の社員の様子を知ることができること等を目的として、毎年、優秀社員表彰や永年勤続表彰等をおこなっています。



表彰式集合写真

## 方針、考え方の浸透

毎年、期末に翌期に向けた全体会議を各事業所にておこなっています。2017年9月期を総括し、2018年9月期の事業方針および今後の会社方針について社員全員に説明をおこない全社のベクトルをあわせています。会議の後は懇親会を開催し、社員同士が交流する良い機会となっています。



本社・事業所の全体会議・懇親会の様子

アビストは事業形態上、社員の就業場所が社内外に分散します。各事業所にて定期的な面談やイベント開催などの、社員同士の信頼の和の構築のための施策を実施しています。情報を共有し、信頼の和の構築を補完することや、社内手続きの効率化のため、社員全員に携帯情報端末を貸与しています。携帯情報端末は、就業場所の条件などにより、タブレットもしくはスマートフォンを選択します。

## 目的を持って行動し考える

アビストは、設立当初からサークル活動支援をおこなってきました。野球やゴルフといった一般的なスポーツのサークルだけでなく、釣り、レーシングカート、サバイバルゲーム、ラジコン、ボーリング、アウトドアなど様々なサークルが公認されています。リーダー育成や、経営方針の浸透・理解、現状と将来を認識しアビストの今後の方向性を考えることなどを目的として、階層別の研修を実施しています。

2017年7月、社員とその家族を含め合計170名でトヨタ地区運動会が開催されました。



フットサルサークル

レーシングカートサークル

アウトドアサークル



研修風景



愛知地区運動会写真

## 社会貢献

### クリーン・ボランティア活動

アビストは2009年1月より、本社及び全国各地の事業所において、役職員有志による毎朝始業前の地域清掃活動（クリーン・ボランティア活動）をおこなっています。さわやかな朝の空気の中かで清掃活動をおこなうことによって、オフからオンへ気持ちを切り替えることができます。



各地のクリーン・ボランティア活動の様子

### 障害者雇用の推進

アビストの障害者雇用は、各事業所の事務補助業務・清掃業務、全社の事務業務のサポートをおこなう本社内の業務支援チーム、の大きくわけて2通りの対応にて障害者雇用を推進しています。清掃業務については、当初、本社のみでしたが、現在は、東京、豊田、名古屋、海老名のスタッフの人数の多い事業所や清掃業務量の多い事業所にて障害者を雇用しています。本社内の業務支援チームについては、今後さらなる人員増加に向けて、業務切り出しや体制の見直しをおこなっていきます。

## 大学との産学連携

東海大学工学部の産学連携による公募型問題解決コンペ「ものづくり学生サミット in 湘南 2017」に協賛いたしました。前年度コンペの当社課題であった 3D-CAD と 3D プリンターを使用した「東海大学工学部ゆるキャラ（非公認）の考案・作成」にて、最優秀賞を得た学生チームの考案キャラクター（名称：テクーン）が、この度、正式に東海大学工学部の公認キャラクターとして採用されたことを受けまして、今年度の当社課題はその工学部公認キャラクターの各学科バージョンの考案・作成としました。今回で4回目の協賛となりますが、参加学生3チームのうち、なかには前年度最優秀賞を得た公認キャラクター：テクーンの生みの親である学生チームも再び参加しており、他の2チームも負けまいと取組んでいました。未経験の学生達にとってはハードルの高い 3D-CAD と 3D プリンターを使用した課題でしたが、途中で断念することもなく全チームが課題を完遂しました。



学生の工場見学の様子

## アビスト H&F による熊本への義援金など

浸みわたる水素水の定期購入者向けの熊本特産品プレゼントの1つとして、熊本地震への義援金を設定し、累計で100万円を超える義援金を熊本県に贈呈しています。また、国際糖尿病基金やNPO パーキンソン病支援センターに売り上げの一部の寄付をおこなっています。

## 人権の尊重

### 基本的な考え方

アビストは1,095名の従業員（2017年9月末、連結）が在籍しており、その大部分は設計開発アウトソーシング事業の技術社員であるため、事業特性上、技術社員が就業する場所は全国に広がり、担当する技術は多様なものになっています。また、ロボット開発への挑戦、障害者の雇用促進、女性の管理職登用等により、社内の多様性は増えています。アビストは経営理念にて社員の生活向上や自律性の向上を掲げており、社員一人ひとりがイキイキと生活できることや自由闊達に意見交換できることを重視しています。また、社員一人ひとりの集合が企業であり、アビストの設計開発アウトソーシング事業は事業特性上、特に人材の重要性が高いと考えています。社内の多様性の進展や事業特性を踏まえ、アビストの人権についての基本的な考え方は以下のとおりです。

人権は、すべての人に必ず属し、放棄することも剥奪することもできないこと。担当業務が設計開発か清掃か、性別が男性か女性か性的少数者か、国籍が日本か日本以外かなど、職種、地位、性別、国籍等にかかわらず適用されること。さらには、仕事に対する意見、人生の価値観、いままでの経験、持っている能力、受けてきた教育など、各人の意見、価値観、経験、能力等を尊重すること。

アビストは、「コンプライアンスガイドライン」にて人権尊重を規定しています。万が一、差別など人権を侵害する行為が発生した場合の通報窓口として「公益通報制度」を設置しています。



## ステークホルダーエンゲージメント

### 基本的な考え方

アビストは事業目的にて、社会全体、お客さま、当社の社員、に対し貢献していくことを表明しています。事業目的を達成するためにステークホルダーを含めた「信頼の和の六輪づくり」に継続的に取り組んでいます。

アビストは、ステークホルダーを認識し対話をおこなうことにより、アビストの活動がステークホルダーに対しどのように貢献しているのか、また、どのような影響を与えているのか、理解する努力をいたします。自らの活動の影響度合いを把握したうえで、継続的に活動の改善をおこないます。

ステークホルダー	関係等
株主	IR情報、株主総会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会、個人投資家向け会社説明会、投資家との個別面談
お客さま	エリアごとの事業所配置、営業担当者の任命
大学関係者	エリアごとの事業所配置、採用担当者の任命
取引先	エリアごとの事業所配置
社員	社員面談の実施、研修・勉強会・イベント開催、評価制度の運営
地域社会	クリーン・ボランティア活動、お祭りへの協賛

ステークホルダーとの共通の窓口として、広報室を設置し、ホームページによる情報発信や、電話・Eメールによる個別のお問い合わせへの対応をおこなっています。

アビストホームページ <https://www.abist.co.jp>

【広報室】 TEL. 03-5942-4649 E-mail: pr@abist.co.jp

## 環境保全

### 基本的な考え方

---

自動車業界におけるクリーンエネルギー車の開発など、製造業による環境問題への取り組みに、設計開発技術で貢献します。日々の企業活動においても環境意識の向上を図り、電気や水の節約、紙や文房具の再利用、ゴミの分別廃棄など、できることを一つ一つ着実に実行していきます。

### 自社賃貸物件の照明 LED 化、電気使用量記録等

---

アビストは渋谷区富ヶ谷に賃貸物件を保有しています。2012 年に、地下 1 階から 3 階までの蛍光灯 230 灯をすべて LED 照明に交換いたしました。

本社、事業所での電力使用量のリスト化により使用量を把握し、昼休みの消灯などの省エネ活動をおこなっています。

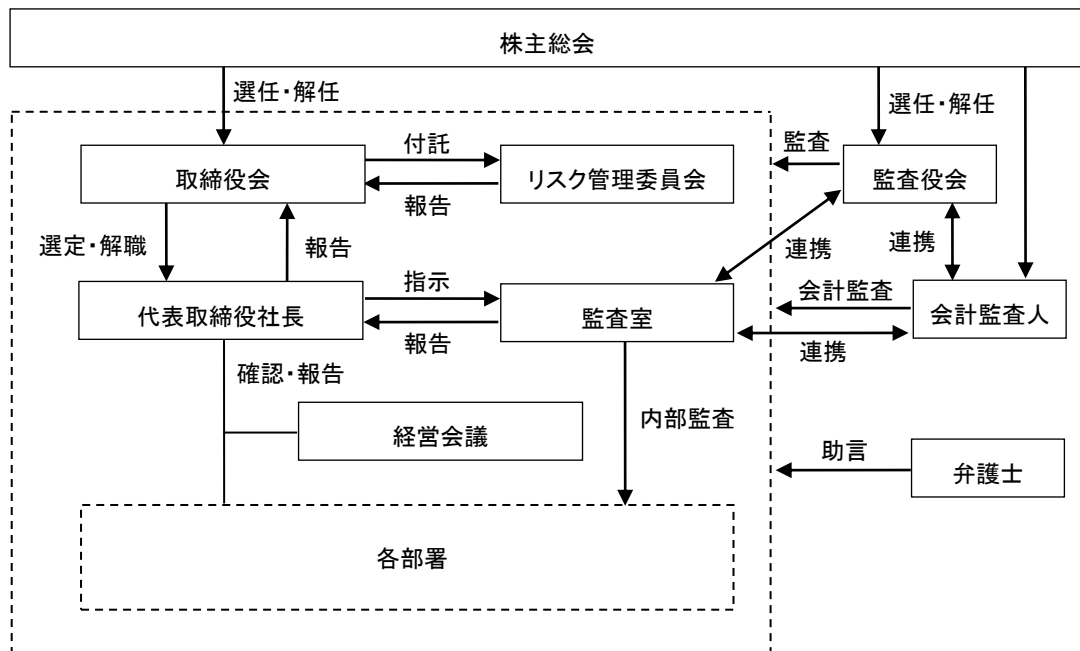
# コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

開かれた、健全で透明な企業活動を行いつつ、企業価値の増大と永続的発展を目指すことが、経営上の最も重要な課題であり、それを実現するためには、経営上の組織体制やその仕組みを整備し、必要な施策を講じていくことが不可欠であると認識しております。事業目的、経営理念を定め、毎日の朝礼、会議や研修前に唱和し、当社の基本的な考え方を繰り返すことによって、組織全体の考え方の統一をはかっています。社外役員については、現時点では社外取締役1名、社外監査役2名の体制となっています。社外取締役については、企業価値向上につながる方という視点で候補者を探しています。

## 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

当社は監査役制度を採用しております。コーポレート・ガバナンスの充実のために、株主総会の充実、取締役会及び監査役の一層の機能強化を図るとともに、積極的かつ継続的な情報開示に取り組んでまいります。当社のコーポレート・ガバナンス体制及び内部統制体制の概要は以下の図の通りです。



## リスクマネジメント

---

アビストは、リスクマネジメントの確立に向けて「リスク管理規程」を制定し、リスク及び危機発生時の迅速・的確な対応ができるよう「リスク管理委員会」を設置しております。リスク管理委員会においては、対象リスクの識別・評価を行い、定期的に取り締役会に報告し、常に適切な対応をとるべく努めております。さらに、リスク管理及びコンプライアンスの徹底を図るため、取締役会、その他の会議にて情報を共有し、各役員から社員までリスクの早期発見と未然の防止に努めております。特に、情報の管理において当社は情報セキュリティマネジメントシステム（ISO/IEC 27001、登録組織：本社・東京受託室、登録活動範囲：顧客要求に基づいた三次元CADによる設計業務）の認証を取得しており、情報セキュリティ体制には万全を期しております。また、コンプライアンスの徹底については社員の入社時、派遣開始時、朝礼時、各会議時及び社内報等を通して全社員にその意識付けを頻繁に実施しております。今後も社会の信頼に応える高い倫理観を持って行動すべく全社員にリスク管理及びコンプライアンスに対する意識の向上を図ってまいります。

また、不測の事態への応用力を向上させることを目的として、事業継続計画書（BCP）を策定し、定期的に見直しをおこなっています。東日本大震災発生時に通常の連絡方法が利用できなくなったことを教訓とし、BCPに基づき、グループウェアを利用して定期的に災害時の安否確認訓練をおこなっています。

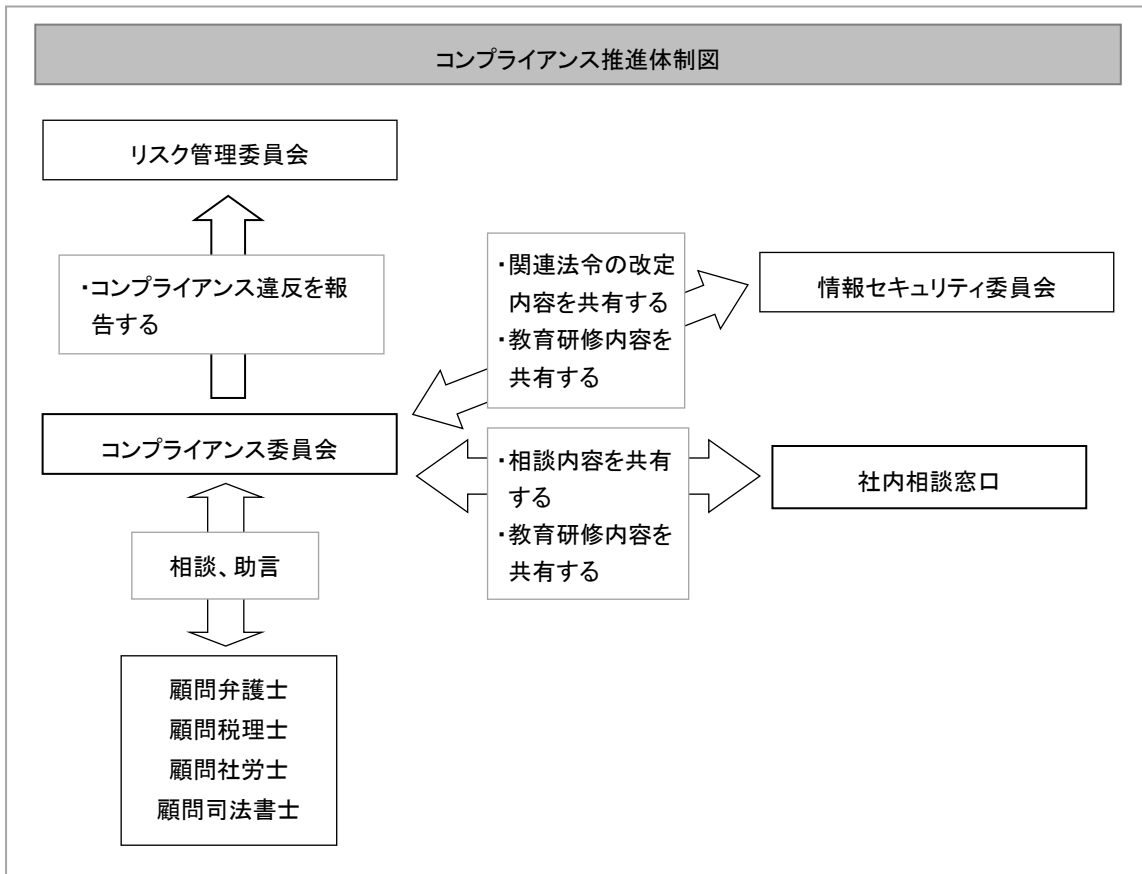
なお、アビストは弁護士等の外部専門家と顧問契約を締結し、適宜、重要な法的判断、コンプライアンス等に関して、助言と指導を受けております。

## コンプライアンス

日本の製造業において品質管理の不正が頻発しています。原因として、会社が品質管理の現場の実態を把握せず、現場に無理がかかっていたことも推定されています。

アビストは、おもに 3D-CAD 設計によりものづくりに貢献してきました。設計の現場の実態を把握するとともに、設計業務の生産性向上の取り組みを開始いたしました。設計の高度化や自動化により、品質向上と現場の負荷軽減の両立をはかります。

コンプライアンス推進計画により、コンプライアンス委員会の定期的な開催やコンプライアンス研修等を実施しています。アビストは、信頼の和の六輪づくりに取り組んでおり、その信頼をうらぎることのないようコンプライアンスを推進してまいります。



## コンプライアンスガイドライン

本ガイドラインは、企業活動において法令や社会規範に反することなく、公正・公平に業務を遂行するための行動規範です。株式会社アビストの役員および社員は、本ガイドラインを実践することが当社の健全な発展に不可欠であることを認識し、自らの行動、そして会社業務としての活動において、率先垂範し、これを遵守していかねばなりません。

### 1. 総則

#### 法規範の遵守

企業としての信頼性の向上および株主尊重の重要性を認識し、国内外の法令を遵守することはもとより、当社に求められる企業倫理を十分に認識したうえで、社会規範を尊重し、社会人としての良識と責任をもって行動します。また、社外で業務を行う場合には、お客様が定めるルールや規範などを遵守し、自らの行動が会社全体に影響を与えるものであることを自覚し行動します。

### 2. 社会との関係

#### 社会への貢献

地域社会への協力、ボランティア活動への参加などを通じて、積極的に社会貢献活動を実践し、企業市民としての役割を果たします。

#### 環境問題への取り組み

自動車業界におけるクリーンエネルギー車の開発など、製造業による環境問題への取り組みに、設計開発技術で貢献します。日々の企業活動においても環境意識の向上を図り、電気や水の節約、紙や文房具の再利用、ゴミの分別廃棄など、できることを一つ一つ着実に実行していきます。

#### 反社会的勢力の排除

法令と良識に基づいて行動し、暴力団に対する利益供与など法令上の禁止行為を行わないことは勿論、反社会的勢力との関係は一切遮断します。反社会的勢力からの不当要求に対しては、警察並びに公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会などと連携のうえ組織として透明性のある対応を行い、事実を隠蔽するための裏取引や資金提供は絶対に行いません。

### 3. お客様や取引先との関係

#### 二重派遣・偽装請負の禁止

派遣先から他社へ再派遣され、指揮命令権が再派遣先にあるような「二重派遣」は行いません。また、契約上は業務請負の形をとりながら、指揮命令権が注文主にある「偽装請負」は行いません。

#### 購入先との適正な取引

購入先との取引においては、良識と誠実さをもって接し、公平かつ公正に扱います。また、取引先に業務委託を行う際には、下請法を遵守し、支払遅延などの行為を行わないよう留意します。

### 4. 株主や投資家との関係

#### 企業情報の適時・適切な開示

会社法をはじめとする関係法規および規則などを遵守し、企業としての信頼性の向上および株主尊重の重要性を十分に認識し、適時適切な情報開示によって企業活動の透明性を確保します。また、Web 上での情報開示などを活用し、当社の経営理念や事業内容、ビジネスモデルなどを積極的に情報発信します。

#### インサイダー取引の防止

インサイダー取引を未然に防止するため、インサイダー取引規制の役員及び社員への周知徹底および自社株取引に関する社内ルールの厳守を図ります。取引先に関する未公表の重要事実を知った場合には、インサイダー取引に関与することが絶対になく、公表されるまで厳重に情報管理します。

### 5. 職場における指針

#### 人権尊重・差別禁止

常に健全な職場環境を維持することに努め、各自の人権を尊重し、差別につながる行為は一切行いません。また、人種、民族、国籍、宗教、性別、心身の障害の有無、健康状態、職種、雇用形態の違いなどによる差別は行いません。

#### セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの禁止

性的嫌がらせ、他人に性的嫌がらせと誤解されるおそれのある行為、職務上の地位や権限を利用して他の者の人格や尊厳を侵害する行為は一切行いません。また、他の者がこのようなことを行わないよう、社内の風土づくりに努めます。

#### 職場の安全衛生

安全・衛生に関する法令などを遵守するとともに、衛生管理年間計画や心の健康づくり推進計画にもとづいた活動を行うことにより、心身の健康状態を良好に保ち、安全で衛生的な職場環境の整備に努めます。

#### 労働時間の厳守

社員は労働三法などの労働関係法を遵守し、労働時間、有給休暇などに関する報告を正確に行います。また、職場上長は部下の勤務日や勤務時間の管理を徹底します。

#### 安全運転の徹底

交通事故は当事者の苦痛はもとより、社会への影響も少なくないこと、当社の事業の性質上、自動車を利用する機会が多いことを十分自覚し、交通ルールを遵守し、安全運転に努めます。

### 6. 会社や会社財産との関係

#### 知的財産権の適切な取扱

全ての業務の遂行において扱う技術、著作物など第三者の知的財産権の大切さを理解し、その権利を尊重し、適切に取り扱います。特に、インターネット上から情報やソフトウェアをダウンロードする時は、著作物などの権利侵害に十分注意致します。

#### 就業規則の遵守

常に就業規則および会社の内規・基準・マニュアルないしは会社の命令を遵守し事業の発展に努めます。

#### 企業秘密の管理

企業秘密（ノウハウ、財務情報、顧客リストなど）は適切に管理し、会社に無断で社外に開示・漏洩しません。企業秘密を社外に開示する場合は、機密保持契約を結ぶなど、予期せぬ漏洩の防止に努めます。また、他社の秘密情報に関しては、盗用したり他社から許された目的以外に使用しません。

#### 会社資産の適切な使用

会社資産を効率的に使用し、個人的な目的で使用しないよう適切に管理します。

#### 利益相反禁止

偽りの申告による手当の取得、会社資産や物品の私的利用、情報の不正転売、常識を逸脱した贈答の授受など、自らの利益のために会社やお客様の利益を不当に害する行為は行いません。

#### 情報システムの適切な使用

事業活動にともなう取り扱う個人情報や顧客情報は、守るべき最重要となる情報資産であると認識し、会社の定める情報セキュリティ方針に則って、情報システムの保護と利用のルールを遵守します。

### 7. 附則

#### 本ガイドラインの適用範囲

本ガイドラインは、株式会社アビストの役員および社員に適用します。なお、社員には契約社員、嘱託社員、臨時社員、および当社が受け入れている派遣社員を含みます。

#### 本ガイドラインの改廃

本ガイドラインの改廃についてはコンプライアンス委員会での検討後、社長の承認を得るものとします。

#### 相談・申告窓口

- (1) 本ガイドラインの内容や解釈に関して疑義が生じた場合の問合せ窓口は総務部とします。
- (2) 本ガイドラインに違反する行為または違反のおそれのある行為については、これを発見した場合またはみずから行った場合を問わず、速やかに所属長または総務部のいずれかに報告しなければなりません。
- (3) 報告者は、報告したという事実により何ら不利益を被ることはありません。

#### 罰則

本ガイドラインに違反する行為をした者や本ガイドラインへの違反を放置した者については、就業規則その他の社内規程に基づいて処罰するものとします。



